

令和4年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表 I

重点目標	【1】学力の向上を目指した授業改善と主体的に学ぶ生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況・評価結果	成果や課題、今後の方針等	評価
<p><行動計画> (1) 教職員の授業改善活動による「わかる授業」の実践</p> <p><目標値> ・生徒・保護者・教職員の授業理解に対する自己評価80% ・教職員研修への満足度85% ・校内授業研究年間3回 ・授業相互見学の実施</p>	<p>・授業理解に対する自己評価 生徒【全体88%、1年90%、2年88% 3年87%】 保護者【全体64%、1年54%、2年69%、3年70%】 教職員【全体83%】</p> <p>生徒 88.5% (R元年)、89.6% (R2年)、87.3% (R3年) 保護者70.8% (R元年)、74.2% (R2年)、64.3% (R3年) 教職員61% (R3年)</p> <p>・教職員研修への満足度 100% (1月研修アンケート) ・校内授業研究年間 現在2回 ・授業相互見学の実施 現在2回</p>	<p>・「授業への理解度」の問いに対しては昨年度をやや下回ったが、「学力が身につけている」に対して生徒・保護者・教職員の回答は昨年度より向上しており、一定の評価ができる。</p> <p>・タブレット端末を用いた授業づくりを推進するため、ICT支援員を研修会へ招き、授業力向上に努めた。</p> <p>・毎週金曜日にタブレット端末持ち帰りを行い、学習支援ソフト「e-ライブラリ」を活用して、家庭学習の充実に努めた。</p> <p>・今年度の取り組み内容をしっかりと見直した上で、次年度へ引き継いでいく。</p>	B
<p><行動計画> (2) 学校のICT化（一人一台端末の有効的な活用）と学習スタイルの共有</p> <p><目標値> ・タブレット活用の促進 ・「書く」活動の充実にに対する自己評価90% ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着と「学び合い」の学習スタイルの充実にに対する自己評価90%</p>	<p>・タブレット端末持ち帰り毎週金曜日実施</p> <p>・「書く」活動の充実にに対する教職員評価 96% (1月研修アンケート)</p> <p>・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を定着に対する教職員評価 100% (1月研修アンケート)</p> <p>・「学び合い」の学習スタイルの充実にに対する教職員評価 96% (1月研修アンケート)</p>	<p>・タブレット端末を用いた授業づくりを推進するため、ICT支援員を研修会へ招き、授業力向上に努めた。</p> <p>・毎週金曜日にタブレット端末持ち帰りを行い、学習支援ソフト「e-ライブラリ」を活用して、家庭学習の充実に努めた。</p> <p>・すべての教科において「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を行うことで、学びの土台となる授業スタイルが定着した。また、感染防止対策を講じたうえで、学び合いの学習も徐々に取り入れていった。</p>	A
<p><行動計画> (3) 読書習慣の定着</p> <p><目標値> ・短学活での読書活動の充実（生徒アンケート評価90%） ・生徒一人当たりの年間読書冊数の目標値20冊</p>	<p>・朝の読書活動において、毎日1つの学級が図書館で実施</p> <p>・生徒の年間読書冊数（12月22日現在） 7,989冊 7,307冊 (R元年)、5,678冊 (R2年)、6,707冊 (R3年)</p> <p>・一人当たり年間冊数（12月22日現在）13.68冊 15.7冊 (R元年)、10.3冊 (R2年)、11.16冊 (R3年)</p> <p>・国語科、特別支援学級等で図書館を利用した学習の実施</p> <p>・図書館ADの訪問による学習支援回数もおよそ月1回開催</p> <p>・朝読、朝学の取り組み状況生徒自己評価 全体93%、1年92%、2年91% 3年95% 89.2% (R元年)、91.1% (R2年)、87.3% (R3年)</p>	<p>・本年度は、図書館利用や図書貸出冊数は昨年より増加した。毎日1クラスが学校図書館でじっくり読書に親しむ機会を設けた成果であると思われる。</p> <p>・日常的に図書館を訪れる生徒は多くなりつつあり、学校司書を中心として図書館環境は整備されている。</p> <p>・今後は、3年生の読書時間が減少する傾向にある。受験に向けた学習時間の増加によると考えられる。そのため、今後も望ましい読書習慣を、1・2年時に定着させていく。</p>	A
<p><行動計画> (4) 学習習慣の定着</p> <p><目標値> ・「家庭学習の手引き」と「自習学習ノート」を活用（家庭学習に対するアンケート達成率75%） ・短学活での学習活動の充実（生徒アンケート評価90%）</p>	<p>・全国学力調査より 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」 62% (本校) 62% (三重県) R3年 63.7% (本校) 65% (三重県)</p> <p>・アンケート「家庭で毎日勉強していますか」 生徒63% 保護者56%</p> <p><生徒> 71.0%(R元年)、72.3%(R2年)、65.8% (R3年) <保護者> 61.5%(R元年)、62.2%(R2年)、55.8% (R3年)</p>	<p>・家庭での学習習慣の定着については、昨年度を下回る結果となった。ICTを利用するなど家庭での学習スタイルも新しく変わりつつあるが、学習の手引きや「スタDayノート」、授業での宿題の出し方に関して見直し、指導の強化を図っていく。</p>	B

令和4年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅱ

重点目標	【2】豊かな心を持ち、命を大切に作る生徒の育成	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
<p><行動計画> (1)「人権」「道徳」「いのち」を大切に教育の推進</p> <p><目標値> ・人権教育推進委員会（週1回開催）、校区人権ネットワーク（年間3回開催）（人権教育への取組評価保護者・教職員80%） ・「いのちの日」の取組等による自他の命を大切に作る教育の推進「いのちの日」「多文化共生」等に係る講演会を年間1回以上開催。（人権学習への取組評価生徒90%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会 週時程に入れ、定例化により週1回開催 ・各学年別に人権学習計画を検討し、人権教育推進委員会において系統性を検討 ・人権や道徳の年間計画に沿って、総合や道徳の時間に系統的な学習を行った。 ・アンケート「人権学習や講演会に真剣に取り組んだか」 生徒 95% 保護者 66% 職員 89% 生徒 90.5% (R元年)、92.4% (R2年)、93.5% (R3年) 保護者83.8% (R元年)、90.0% (R2年)、66.4% (R3年) 教職員90.9% (R3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育9か年カリキュラムに基づき、各学年の人権学習を行った。校区人権フォーラムでは、人権サークル「ヒューマンライツ」のメンバーが参加し小学生と交流し学習を深めることができた。 ・学年別人権フォーラム、いのちの日講演会などにおいて、生徒の前向きな学習姿勢が見られた。年間を見通して生徒の現状や課題に応じて計画的に取り組む必要がある。 ・校内の活動のほか、三中交流会、亀高フレンドリークラブ発表会、生徒会研修会などの行事、また多くの作文応募などで幅広く活躍する生徒の姿があった。またこれらの教育活動が保護者に伝わるよう情報発信していく。 	B
<p><行動計画> (2)生徒の居場所づくり・きずなづくりを意識した仲間づくり</p> <p><目標値> ・QUアンケート分析（年間2回）、仲間づくりアンケート（各学期）、人権アンケート（年間1回）、魅力ある学校づくりアンケート（各学期）（生徒理解に関するアンケート90%） ・教育相談活動の充実（いじめのない学級づくりへのアンケート評価90%）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「学校生活が楽しい」生徒94% 94.6% (R元年)、96.3% (R2年)、93% (R3年) ・アンケート「先生に気軽に相談できる」生徒82% 81.6% (R元年)、81.8% (R2年)、83% (R3年) ・アンケート「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」生徒94% 93.2% (R元年)、94.1% (R2年)、93% (R3年) ・アンケート「先生は生徒のことをよく理解している」生徒93% 90.6% (R元年)、91.6% (R2年)、92% (R3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活が楽しい」「先生はいじめのない学級づくりに努めている」「先生は生徒のことをよく理解している」は昨年度より上回っている。この数値に左右されることなく、いじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組む。 ・視点生徒を設定した学級づくりレポートの研修会を実施し、グループ別に分かれて、取り組みにおける困り感や具体的な手立てについて交流し学んだ。 	B
<p><行動計画> (3)生き方を学ぶ教育活動の推進</p> <p><目標値> ・進路、キャリア、多文化共生、防災、性等の生き方につながる教育活動の実践（ゲストティーチャー年5回以上）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年 <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室（7月） ・障がい者理解学習（7月） ・薬物乱用防止教室（7月） ・環境学習講演会（11月） ・スマホ教室（12月） ○2年 <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習講座（9月） ・救急救命講座（10月） ・生命尊重講座（2月） ○3年 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育講演会（11月） ○全学年 <ul style="list-style-type: none"> ・三送会、いのちの日講演会（2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行い、外部から講師を招いた講演会を各学年の実情に合わせて効果的に実施することができた。 ・今年は「いのちの日」の講演会として、腰塚勇人さんを招き、「いのち」の大切さや自分の生き方を考えるきっかけとなった。今後も生徒の生き方、考え方を深められるような講演会や学習を継続していく。 ・本校には外国にルーツを持つ生徒が40名ほど在籍している。家庭的な背景や学力の定着の面で課題を抱える生徒も多い。自分のルーツに誇りを持って思いを発信でき、互いに文化や伝統の違いを尊重し合える学習をさらに推進していく必要がある。 	B
<p><行動計画> (4)いじめの早期発見、早期対応と継続的な指導の徹底</p> <p><目標値> ・いじめアンケート年間3回 ・教育相談活動の充実（年間3回+α） ・いじめへの取組に関するアンケート評価90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化して開催し、情報共有と対応について検討。 ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会に取り上げられた生徒情報は担当から各学年部に伝え、職員会議でも情報の共有化を図った。 ・いじめアンケート3回実施、生活アンケート3回実施。 ・教育相談期間4回実施、3学期2回予定。 ・アンケート「学校生活が楽しい」生徒94% 94.6% (R元年)、96.3% (R2年)、93% (R3年) 「先生はいじめのない学級づくりにつとめている」生徒94% 93.2% (R元年)、94.1% (R2年)、92.7% (R3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケートや教育相談以外にも、いじめの早期発見の手立てとして、休み時間や放課後の会話の中などで生徒の様子に目を配ったり、生活ノート等、教職員と生徒の間で日常行われている連絡帳等を活用して交友関係や悩みを把握したり、個人面談や家庭訪問の機会を活用したりもした。 ・「学校生活が楽しい」「先生はいじめのない学級づくりに努めている」が前年度より上回っているものの、今後もいじめを許さない仲間づくり、生徒同士の課題解決能力の育成、保護者との信頼関係の構築等に一層力を注ぎ取り組む。 	B

令和4年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅲ

重点目標	【3】生徒の自治的活動の推進と地域、保護者との連携	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針等	評価
<p><行動計画> (1) 生徒が主体となる生徒会活動・学年評議会活動・学級活動・部活動の充実</p> <p><目標値> ・生徒、保護者、教職員「生徒会活動の充実」アンケート評価90%</p>	<p>・本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、全校が一堂に会する生徒集会は持つことができなかったが、放送機器やZoomにより各教室で視聴参加する形で開催することができた。</p> <p>・文化祭では、亀山市文化会館で感染拡大防止対策を講じて行い、学級づくりに取り組んだ。</p> <p>アンケート「生徒会活動、委員会活動は充実している」生徒 96%</p> <p style="padding-left: 20px;">93.2%(30年)、91.1%(R元年)、91.6%(R2年)、90%(R3年)</p> <p>アンケート「校内美化に取り組んでいる」生徒 95%</p> <p style="padding-left: 20px;">93.2%(30年)、91.9%(R元年)、94.9%(R2年)、85%(R3年)</p>	<p>・全校生徒で取り組む行事の回数に限られる中で、感染拡大防止対策を講じ、各活動を実施した。特に、学級づくりに大きく寄与している体育祭や文化祭といった学校行事も、コロナ以前の活動に近い内容で実施することができた。来年度も生徒主体の活発な活動となるように、取り組みを継続していく。</p> <p>・美化委員会を中心に「学校環境デー」を7月に実施した。グラウンドや駐輪場等の除草作業を行い、環境整備に取り組んだ。</p>	B
<p><行動計画> (2) 学校運営協議会を核とした学校・保護者・地域が一体となった教育活動を推進</p> <p><目標値> ・年間4回以上の学校運営協議会の開催と活動方針の協議及び実践 ・PTAとの連携による教育活動（家庭学習、スマホ・ゲーム視聴時間等の改善活動） ・学校関係者評価の実施と改善活動（公開）</p>	<p>・学校運営協議会4回実施</p> <p>①R4.4.22 経営方針・予算等の承認 ②R4.6.30 授業参観・意見交流 ③R4.11.29 教育総務からの予算説明、生徒との懇談 ④R5.2.2 学校評価、次年度の経営方針</p>	<p>・昨年度から「亀山中学校学校運営協議会」が発足した。学校の教育目標や解決すべき課題を学校、保護者、地域住民の三者で共有し、生徒が安心していきいきと活躍できる環境づくりのために、学校運営協議会を4回実施した。市当局への要望、生徒との懇談など、委員からの意見を元に協議会の内容を設定したことで、内容が形骸化されることのないものとなった。今後も連携をさらに推進していく。</p>	B
<p><行動計画> (3) 生徒の地域活動参加による社会貢献・ボランティア活動</p> <p><目標値> ・地域行事、ボランティア活動への積極的参加（生徒アンケート評価70%）</p>	<p>・本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、福祉委員会による福祉施設訪問・ボランティア活動、地域行事への積極的な参加は実施できなかった。赤い羽根募金街頭活動、福祉施設とのリモートによる懇談会を実施した。</p> <p>アンケート「福祉活動、ボランティア活動に参加」生徒 56%</p> <p style="padding-left: 20px;">52.9%(R元年)、53.3%(R2年)、51%(R3年)</p> <p>アンケート「積極的に地域行事に参加」生徒 68% 保護者 39%</p> <p style="padding-left: 20px;">生徒 74.6%(R元年)、67.7%(R2年)、64%(R3年) 保護者 71.5%(R元年)、52.0%(R2年)、39%(R3年)</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの地域行事や福祉活動が中止となった。その中で、赤い羽根募金街頭活動、福祉施設とのリモートによる懇談会は貴重な機会となった。来年度も、コロナの状況に応じて地域行事やボランティア活動に積極的に参加できるよう、啓発し呼びかけを行いたい。</p> <p>・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため全体的な数値は大きく下がったが、福祉活動、ボランティア活動、地域行事参加への意識は高く、例年は多くの生徒が各活動に参加できている。（三重県、全国との比較ではかなり高い）来年度も、状況に応じて各活動への参加を推進していく。</p>	B
<p><行動計画> (4) 学校による教育活動の情報発信</p> <p><目標値> ・学校だより発行数20回以上 ・ホームページの随時更新 ・保護者アンケート評価85%</p>	<p>・学校だよりは、12月末段階で発行部数35号を教え、日々の生徒の活動や様子の紹介や新型コロナウイルス感染症対策、学力調査の結果の公表、時事を取り上げた投げかけ等、多岐にわたって校外に発信をしている。</p> <p>・学校ホームページは、行事等の機会をとらえてタイムリーに学校の様子を発信した。</p> <p>アンケート「学校の様子を知らせているか」生徒94% 保護者 86%</p> <p style="padding-left: 20px;">生徒 92.4%(R元年)、90.3%(R2年)、93%(R3年) 保護者 85.9%(R元年)、88.9%(R2年)、86%(R3年)</p>	<p>・昨年度に比べ「学校だより」発行、ホームページの更新は、回数も多くタイムリーに校外に発信することができた。ペーパーレス化の取組も、タブレット端末の持ち帰りと連動させたが、大きな混乱もなく実施することができた。</p> <p>・コロナ禍において地域や保護者に学校の様子を知ってもらうため、次年度においてもさらに積極的な更新を心がけ、情報発信に努めていく。</p>	A

令和4年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅳ

重点目標	【4】個々を大切にしたい誰一人取り残さない教育の推進	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針 等	評価
<行動計画> (1)魅力ある学校づくりの推進 <目標値> ・魅力ある学校づくりアンケート（学校生活の楽しさ・みんなで活動する楽しさ90%）	アンケート「学校生活が楽しい」生徒94% 94.6%（R元年）、96.3%（R2年）、93%（R3年）	・新型コロナウイルス感染症による社会や家庭への影響が大き く、今まで以上にSNSや生活面での生徒指導課題が顕在化し た。不登校気味の生徒や家庭への支援を行いつつ「魅力ある学校 づくり」に一層取り組む必要がある。特別支援Coや生徒指導主事 を中心に外部専門機関との連携をさらに密にし、情報の共有化と 対応の検討をチーム学校で取り組む。	B
<行動計画> (2)生徒支援体制の充実 <目標値> ・生徒指導委員会、特別支援委員会の週1回開催による情 報共有と支援体制の確立	・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化して 開催し、情報共有と対応について検討。 ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会に取り上げられた 生徒情報は担当から各学年部に伝えるとともに、職員会議でも 情報の共有化を図った。	・一部の教職員や特定の教職員が抱え込むのではなく、校長も含 め組織として情報を共有して対応を協議・決断し、組織的に対応 することが必要であり、全ての教職員で共通理解を図るために も、情報共有を重要視した。	B
<行動計画> (3)不登校・別室登校生徒へのきめ細やかな対応 <目標値> ・新規不登校数の削減（年間10人以下） ・オンライン授業等による不登校生徒の学習支援 ・別室登校生徒の学習支援 ・適応指導教室、子ども支援 室等との連携（つながりを持たない家庭ゼロ）	・きめ細やかな対応を行うため、不登校支援担当を新たに設 け、担当が抱かえこむことなく、組織的な対応が行えるように した。 ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化して 開催し、情報共有と対応について検討。 ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会に取り上げられた 生徒情報は担当から各学年部に伝えるとともに、職員会議でも 情報の共有化を図った。	・一部の教職員や特定の教職員が抱え込むのではなく、校長も含 め組織として情報を共有して対応を協議・決断し、組織的に対応 することが必要であり、不登校支援担当を新たに設け、状況に応 じて効果的な対応を組織的に行うことにつなげた。 ・不登校担当者や特支教育コーディネーターは、日ごろから関係 機関等との連絡を行い、学校だけではないサポート体制をつくり 上げている。	B
<行動計画> (4)教育と福祉の連携、家庭支援のための小中連携の促進 <目標値> ・「つながるシート」を活用した子ども支援グループ、地 域福祉課、社会福祉協議会等との連携（随時） ・子どもの育ちの連続性を意識した学校間連携（小中間・ 中高間）キャリアパスポートの活用 小中連絡会の開催（年2回）、児童生徒情報交換会（小中 間1回、中高間1回）	・生徒指導主事、特別支援教育コーディネーターを核として、 各関係機関を連絡を密にし、生徒や保護者への適切な支援につ なげた。 ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会を週1回定例化して 開催し、情報共有と対応について検討。 ・生徒指導委員会、特別支援教育推進委員会に取り上げられた 生徒情報は担当から各学年部に伝えるとともに、職員会議でも 情報の共有化を図った。 ・小中連絡会、生徒指導協議会等の場で、それぞれの取組を共 有し、小中の連絡を密にした。	・経済的に困難な家庭の生徒を早期の段階で福祉制度につなぐこ とができるよう、生徒・保護者の生活状況を福祉機関と共有し、 就学支援や生活困窮者自立支援法に基づく学習支援の活用など、 福祉関係機関と連携した支援を行った。	B

令和4年度 亀山中学校 具体的行動計画 学校自己評価表V

重点目標	【5】働き方改革と健康の保持増進・同僚性の向上	学校自己評価：B	
		〔評価〕 A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	成果や課題、今後の方針等	評価
<行動計画> (1)働きがいがあり、健康で明るい職場づくり <目標値> ・教職員満足度調査75% ・健康診断の事後対応の徹底（要検査・治療等の確実な実施） ・ストレスチェックによる総合健康リスク及び量・コントロールの項目全国平均以下	・勤務における満足度 54% 73.33%（R元年）、56%（R2年）、15%（R3年） ・校内研修満足度 100% 75%（R3年） ・健康診断の事後対応の徹底 校長による面談・指導 100%	・生徒や保護者は学校生活に対して肯定的な評価がみられ、教職員の満足度は昨年度を大きく上回る結果となった。人員の確保・分掌の新設・事務業務の効率化・働き方改革の前進が要因となっていると考えている。 今後はさらに校長のリーダーシップを発揮し、同僚性を高め、学校改革にチャレンジしていく。	A
<行動計画> (2)働き方改革と総勤務時間の縮減 <目標値> ・部活動休養日の達成率100% ・定時退校日の達成率80% ・時間外勤務時間80時間以上の職員数0人 ・時間外勤務時間45時間以上の職員数のべ80人以下 ・時間外労働月平均時間31時間以下（三重県平均）	・時間外勤務状況（4月～12月）27.0 h 52.6 h（R元年）、32.3 h（R2年）、33.9 h（R3年） ・有給休暇取得状況（4月～12月）18.0日 13.9日（R元年）、13.5日（R2年）、8.6日（R3年） ・定時退校日達成率 93.2% 51.4%（R3年） ・月80h以上の職員（12月末現在）0人 16人（R3年度12月末）4人（R2年度12月末） ・衛生推進委員会（12月末現在）23回 23回（R3年度12月末）18回（R2年度12月末）	・働き方改革を推進して総勤務時間縮減することを目指し、人員の確保・分掌の新設・業務の整理・行事の見直し等を図った。 ・昨年より、総勤務時間については確実に減少している。時間外勤務が80hを超える状況はほとんどなく、改善が図られている。 今後も個々の勤務状況の把握にとどまることなく、校務改善、働き方改革および見直しに取り組んでいく。	B
<行動計画> (3)教職員研修の充実と同僚性の向上 <目標値> ・校内研修への満足度90% ・OJTへの満足度80%	・校内研修満足度 100% 75%（R3年）（1月研修アンケート） ・OJTへの満足度 100%（1月研修アンケート）	・校内研修の充実を通して、学校の組織力を高めることをねらいとして、研修会やOJTを企画した。教職員が主体的に研修することで活発な研修となり、同僚性を高め、お互いに学びあう関係性づくり・絆づくりを、まず教職員が作る事ができた。	B

<学校関係者評価（亀山中学校学校運営協議会）>

第4回亀山中学校学校運営協議会において、学校自己評価について関係者評価を行った。「学校による教育活動の情報発信」の取組について好評であり、「働き方改革」の取組についても、実効ある有意義な取組であるとのこと意見をいただいた。

一方で、「読書週間の定着」に関わって、読書冊数の増加は見受けられるが、全国平均と比べると低い傾向にあるという指摘をいただいた。その上で、教職員の読書意識と読書指導力を向上させ、より一層の推進を図るよう提言をいただいた。

また、「学校自己評価」について、方向性や計画のPの部分と取組や行動面のDの部分の混在している箇所があり、整理することでさらに自己評価の精度が上がるとのご意見もあった。全体的には概ね適正に評価されているとのこと意見をいただいた。

学校では年度末に向けて校内での総括を行う中で、協議されたことをもとに、次年度の方向性を検討していくこととし、改善活動に取り組んでいく。